

事 後 評 価		
○事後評価の実施体制、実施時期		
事後評価の実施体制 和光市都市整備部内にて実施	事後評価の実施時期	令和6年2月
	公表の方法	和光市ホームページにて公表
○事業効果の発現状況		
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	上谷津ふれあいの森を公有地化したことで、市内における特別緑地保全地区の面積については、事業当初の6,995㎡から8,432㎡に増加し、公共施設として恒久的な緑地を拡大した。また、牛房八雲台特別緑地保全地区については、崩落危険箇所の安全対策工事を実施したことで、市内の特別緑地保全地区における危険箇所が2箇所から1箇所に減少し、公共施設の安全性が向上した。なお、午王山特別緑地保全地区の危険箇所の安全対策事業については、別事業にて実施予定である。	
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	計画に沿った事業を実施し、特別緑地保全地区の公有地化、急傾斜地の土砂崩落防止対策が適切に行われた。上谷津ふれあいの森については、近隣に整備した上谷津公園と合わせて市内の水と緑のネットワークの強化を図ることにより、貴重な動植物が生息・育成する樹林地の保全や地域住民への憩いの場を創出した。また、牛房八雲台特別緑地保全地区の崩落危険箇所については、植生が図れる安全対策工法を実施したことで、安全安心と緑の創出を両立させることが出来た。	
○特記事項（今後の方針等）		
市内には他にも貴重な緑地が存在することから、令和4年3月に策定した緑の基本計画に基づき、特別緑地保全地区制度や市民緑地制度等を活用し、今ある樹林地の保全を推進する。また、市民との協働により生物多様性に配慮した維持管理を進めるとともに、土砂災害リスクの軽減を図るため、安全点検・安全対策を推進する。さらに、市民や企業の緑地保全への理解を深め、公有地化を含めた、緑地保全の財源確保に努めるとともに、必要な土地の買入を行い、自然環境と安全性が伴った憩いの場となるよう、引き続き事業に取り組んでいく。		

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	目標 6,995m ² →8,432m ²		
	最 終 目標値	8432m ²	
	最 終 実績値	8432m ²	
2	目標 2箇所→1箇所		
	最 終 目標値	1箇所	
	最 終 実績値	1箇所	